

令和 7 年度第 2 回西淀川区区政会議

1 開催日時：令和 7 年 9 月 25 日（木）午後 6 時 30 分～午後 8 時 28 分

2 開催場所：西淀川区役所 5 階 会議室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50音順）

伊関、今前田、浦中、大垣、大西、岡崎、岡本、倉方、竹内、田中、樋口、平井、
平林、藤江、藤浪、矢口、吉見

（事務局：西淀川区役所）

松田区長、楯川副区長、奥本総務課長、横内区政企画課長、澤田地域支援課長、
井上防災安全課長、奥野窓口サービス課長、松井保健福祉課長、
山城生活支援担当課長、椿野こども福祉担当課長、足立保健主幹

（市会議員）

佐々木哲夫市会議員 山田かな市会議員 清水こう市会議員

（府議会議員）

中川誠太府議会議員

4 議題

（１）グループ討議 多文化共生に向けた西淀川区の今後の課題と戦略について

（２）その他

5 議事内容

○大垣議長

こんばんは。今日は第 2 回ということで、事務局から進行の方、よろしく願いします。

○横内課長

ありがとうございます。本日の司会進行を務めさせていただきます、区政企画課長

の横内と申します。よろしくお願いいたします。

本日の会議は、現時点で14名の参加があり、定員27名の過半数を超えていることから、会議が成立していることを確認いたします。

次に議事進行についてですが、議題は、グループ討議「多文化共生に向けた西淀川区の今後の課題と戦略について」を予定しております。

続きまして、配付資料の確認でございます。資料1としまして、「区政会議の質問・意見に対する回答及びその後の対応」、資料2としまして、「令和7年度第2回西淀川区区政会議グループ討議について」をご用意しております。それから資料3としまして「多文化共生に関するワーク」、横長の資料をご用意しております。それから資料4としまして、「令和7年度第1回区政会議グループ討議各グループから出た意見と議論について」ということで、4グループのご意見をまとめさせていただいております。以下、参考資料としまして、前回もつけさせていただきましたが、「大阪市多文化共生指針（概要版）」、参考資料2としまして、「西淀川区役所における多文化共生施策」、資料3としまして、「大阪市外国人住民アンケート調査報告書」、それから参考資料4としまして、「大阪市の外国人住民国籍別区別人員数」を参考につけております。それから参考資料5「多文化共生エリアプログラム」をつけさせていただいております。それから最後に、大阪市の報道発表ということで、後ほどこちらで上映した動画を皆さんに見ていただきますが、万博国際交流プログラムの交流取組として、西淀川区がペルーのナショナルデーに出来島地域の商店街の皆様等と参加しまして行った取組がございますので、その報道発表資料をご参考につけさせていただいております。

資料について不足等ございましたら、挙手をよろしくお願いいたします。

それでは、進めさせていただきます。この区政会議実施状況については、ホームページや広報紙で報告いたします。様子がより伝わるように写真を掲載いたしますので、会議中に写真を撮らせていただきます。また、会議の様子を西淀川区Y o u T u b e

チャンネルでライブ配信しております。

以上、どうぞよろしくお願いいたします。

○大垣議長

それでは議事に先立ちまして、区長からご挨拶をお願いいたします。

○松田区長

皆様、こんばんは。区長の松田です。

お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。敬老の日も終わって、秋分の日も過ぎて、日も長くなってまいりまして、すっかり秋らしくなってきました。この敬老の日、今年度西淀川区で100歳を迎えられた方、昨年度も多くて28名ほどおいでになったらしくて、そのうち8名ほどの方と直接お会いができて、内閣総理大臣の賞状と銀杯を直接会ってお渡しいたしました。1年の中で一番私も気が引き締まるというか、やはり責任の重さを痛感する場面ございまして、皆さんがやはり心地よく末永く暮らせるようなまちづくり、真剣に頑張っていかなきゃいけないなど、毎年思うタイミングでございます。

今日は多文化共生に向けた西淀川区の今後の課題と戦略ということですが、最近、先般の衆議院選挙でも、今も自民党の総裁選においても、すっかり外国人との共生という部分が大きなテーマになっていて、その議論の内容を聞いていますと、我々は結構先んじているのかなという気もしないでもないです。私としては、外国人だからとか日本人だからとかという話じゃなくて、やはり人と快適に暮らしていける、お互いがお互いのことを慮って暮らしていけるような、そういうまちづくりができればいいなと思ってございます。いろいろご意見を頂戴いたしまして、区政に反映してまいりたく思いますので、今日もどうぞよろしくお願いいたします。

○大垣議長

ありがとうございました。

それでは、議題を進めさせていただきます。それでは、事務局から説明をよろしく

お願いいたします。

○横内課長

議題1を進める前にまず資料1でございますが、この間の区政会議の質問・意見に対する回答ということで、私から概要をご説明させていただきます。令和3年度にいただきましたご意見、「子どもに直接届く支援がまだまだ少ないと感じる。家族の人以外に関わる場所や機会は大切で区として仕組みができたらいと思う」ということで、今回この経過の説明としまして、家庭児童相談員相談事業、子ども見守り強化事業というのを実施しております。地域の居場所が必要な子どもを支援するとともに、保護者のみならず、子どもたちと直接面談し、サポートプランというのを取り組んで必要に応じて困り事を解決していけるようにと取り組んでおります。

続きまして、2番でございます。「区内に海拔マイナス何メートルと貼ってあるが、それをまとめた地図を見たことがない。水がなかなか引かないので、ハザードマップにそういうのを載せたほうがいい」というご意見でございます。海拔につきましては、大阪市防災アプリについて、マップの避難場所等表示をタップすると分かるようになっております。市の水害ハザードマップについては、掲載のスペースというのも限りがございますことから、必要な情報を可能な限り掲載していきたいと考えております。

3つ目でございます。「防災活動について、ジュニアリーダー育成と地域活動に参加していない一般住民向けの防災講座を検討してはどうか」と、西淀川区では中高生を対象に、ジュニア防災リーダークラブ登録制度を創設し、一般の方に対しては保護者、子育て向けに防災出前講座を実施しております。また、防災イベント等についての防災啓発というのを引き続き行っていきたいと考えております。

番号4番でございます。「高齢者の特殊詐欺防止を踏まえて福祉担当と防犯担当が連携した取組の強化を求める」と。現在、特殊詐欺防止というのは非常に深刻な問題となっております。警察と連携しながら様々な場所で注意喚起するとともに、地域への出前講座を積極的に実施し、ホームページ・広報紙等で啓発、区役所1階で啓発と、

そういう取組もしております。また高齢者の方々が集まる行事に出向きまして、防犯出前講座や、緊急通報システムの非常通報装置の設置を進めております。さらに介護事業所や障がい者事業所に依頼して、高齢者に対して特殊詐欺のパンフレットを配布しております。

5 番目でございます。「施策が、子どもが主語になっていない。子どもを市民の 1 人として認め、どこにつながっていけばよいか、事業を考える際に子どもを中心に据えた施策の検討をお願いします」というご意見でございます。大阪市では、子ども・若者の声というのを令和 5 年度に募集をしまして、子ども・若者からご意見を受けたニーズの施策の展開を目指しています。一例としまして、令和 7 年度に改定のありました、社会的養育推進計画という計画があるのですが、こちらで里親、施設に在籍した、または退所した子どもにアンケートを実施して、メンバーも当事者である子ども 2 名を選任して意見を反映するような取組をしております。

6 番目、「に～よんが子どもたちに人気があると思うが、友達登録をしてもらうためにスタンプを使えるようにしてほしい」というご意見です。これを受けまして、に～よんの L I N E スタンプというのを第 1 弾で制作しました。第 2 弾ができるように今現在取り組んでいるところでございます。

7 番目、「津波避難ビルの確保は進んでいるが、24 時間 365 日対応できるようにあらゆる状況を加味して充足が必要。大阪湾岸では昼間の人口が多いため、在勤者への津波避難の啓発も重要です」と。これにつきましては津波避難ビルの表示板を設置している施設では避難可能時間を掲示し、津波避難ビルに関する情報も周知しています。また、区内の事業所・企業等に対しては防災講座を実施し、啓発を継続して行っているところでございます。

8 番目でございます。「スクールカウンセラー、週 1 回学校に訪問することはいい取組、大きな取組だと思うが、週 1 回でできることが限られているので、今日相談したことをまた相談するのに 1 週間待たなあかんというのが課題だと思う。個人情報

取り扱う上でもカウンセラーが1人で情報を抱えてしまわないように課題がある」というご意見でございます。令和6年度から小・中とも週1回、スクールカウンセラーが配置されていまして、虐待の情報も含めて、必要な情報を区役所内では共有しております。また、カウンセラーが行けないときも教職員に対しても必要な助言を行えるよう、不登校で子どもが学校でのカウンセリングができない場合には、保護者の要望に応じて保護者のカウンセリングをし、悩みに寄り添い、解決を図る工夫をさせていただいております。

最後でございますが、「地域で開催するイベントの一覧を作ってPRしてはどうか」と、現在各地域活動協議会が開催する盆踊り、夏祭りの日程を広報紙に掲載しておりますが、その他イベントにつきましても地域のニーズに合わせて、今後PR活動を支援していきたいと考えております。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○大垣議長

ありがとうございます。ただいまの説明について意見・質問がございましたら、挙手をお願いいたします。お名前をおっしゃってください。よろしくお願いいたします。

○大西委員

大西です。津波避難ビルの表示板のお話ですけれども、避難可能時間を掲示することを周知していただいているということですが、この周知だけで、まだ掲示されていないという認識で大丈夫でしょうか。

○大垣議長

どうぞ。

○井上課長

今答えを持っていないので、すぐに確認させていただきたいと思います。申し訳ございません。

○横内課長

また後ほど解説させていただきます。よろしくお願いします。

○大垣議長

何かほかにありましたらどうぞ。

次に行きましょうか。質問ありがとうございます。そうしたら次に行きましょうか。

それでは、事務局から次の議題の説明をよろしくお願いします。

○横内課長

ありがとうございます。それでは、本日の議題であります資料につきましては、資料2と書かれた資料でございます。令和7年度第2回区政会議グループ討議についてというところで、今回のテーマと進め方ということで、前回4班に分かれまして発表していただきました。それに基づいてグループ分けをさせていただいております。後ほど説明しますが、資料3の「多文化共生に関するワーク」に沿って、まずは各自で検討していただいて、その後グループ内でファシリテーターを1人決めていただいて発表、意見交換をしていただきたいと思いますと思っております。

時間の配分でございますが、設定された課題に対する解決策につきましては、付箋でアイデア出しをしていただく時間が約5分で、模造紙に貼って、ご自身の考えを順番に発表していただくのが大体12分ぐらい取らせていただいております。意見交換をして、グループとしての意見を最後に取りまとめてという作業が15分、それからグループ発表ということで、1人1グループ3分程度、全体として50分ぐらいでできたらなと思っております。多角的な視点で検討するため、自由な発想でご意見を引き続きお願いいたします。他者の意見に対する批判や否定などを控えていただきますよう、引き続きよろしくお願いします。多くのご意見をいただけますよう、発言は端的にお願いいたします。

続きまして、資料3でございます。「多文化共生に関するワーク」でございますが、前回、皆様に4グループに分かれていただいて、やはり外国の方とまず知り合うことが重要じゃないかという共通した意見が出たりしました。そのほか、日本人と外国籍

の方との接点の機会創出及び相互理解に向けてということで、「言葉の壁」、「交流機会の不足」、「文化とかルール」、あと「生い立ちの違い」と、割と突っ込んで書かせていただいていますけれども、やはり生まれたところであるとか育った環境であるとかというところですね。やはりお互いを知る上で非常に重要じゃないかなというところも踏まえて、ちょっと突っ込んで書かせていただいております。あと、一般的な広報とかイベントとかそういう観点だけではなくて、地域やその方が働いている場所での偏見の払拭であるとか、やはり住民として生活に根差していただくというところも支援していきたいという気持ちから、4つ書かせていただいております。

その下に、具体的な解決策のアイデアですぐに始められることと、中長期に取り組むべきことと2つに分けさせていただいて、アイデアの内容であるとか対象であるとか、あと関係者ですね、住民とか行政、学校、企業、それに伴う必要な人とか資金とか物資とか設備とか、割とすぐ始められることとか中長期に分けて、具体的なアイデアが出るようにということで、このワークを工夫したつもりですので、ぜひ第1回の会議を踏まえて、ぜひ今年度とか来年度に予算のあるなしは問わず、事業につなげていけるような具体的な意見をまとめていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、資料4ということで、こちらは事前に前回の内容でありますし、読んでいただいていると思いますので、内容は割愛させていただきますが、こういうのも参考にしながら今回50分間やっていただければと思っております。

それから、また議論に入る前に先ほど冒頭に説明いたしました、今回のペルーのナショナルデーで動画を作成して見ていただいた動画がございます。ぜひ見ていただいて、今回の議論の参考になるとと思いますので、お時間をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(動画視聴)

○横内課長

ありがとうございました。これはペルーのナショナルデーの会場で上映させていただいて、ペルーの大統領にも来ていただいていたのですけども、その方と東京からも要人が来られて、このビデオを見ていただきまして、もちろん商店街の方も一緒に見て、国の政府からも発言が出るぐらい紹介していただいておりますので、とてもよかったかなと思っております。

それでは、これから議論に入りたいと思っております。区役所職員の方々もそれぞれのテーブルに移動していただきまして、前回発表したものとグループごとに設定された課題に対するワークシートということで、早速取組を始めていただきたいと思いますと思っております。こういう配置でやろうかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、5分ぐらいでまずワークシートへの記入や付箋への記入ということで、よろしくお願いいたします。

(ワークシート記入)

○横内課長

皆さんまず、各自でシートに書いたり、付箋にメモしたりとか、そういう感じできたかと思しますので、これからグループ内で話し合っていたきたいのですけど、最初にファシリテーターを1人決めていただきたいと思いますと思っております。

(ファシリテーター選出)

○横内課長

もうグループ内でいろいろな意見が出ていると思います。各テーブルで順番に発表していただき、最後にまとめて発表していただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(グループワーク)

○横内課長

いろいろと議論していただいておりますが、あと10分ぐらいで発表、まとめまで持

っていただければと思っております。イメージとか問題点とか、グループでまとめて出していただくのと、できましたらワークシートでどんなことがすぐ始められるかなとか、中長期にこういう時間をかけてやったほうがいいかなみたいな、具体的なところまでできたらおまとめいただけたらありがたいなと思っております。

すみません、そろそろ皆さんの発表の時間を取りたいので、あと1分ぐらいでまとめていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、取りまとめた意見を各テーブル3分程度でご発表いただければと思っております。すぐできるぞというチームがございましたら、挙手をもってよろしく願います。

それでは吉見委員、よろしくお願いいたします。

○吉見委員

こちらは「文化・ルール・生き立ちの違い」をテーマにお話しさせていただきました。まずすぐに始められることということは、外国の方がいらっしゃれば、まず勇気を持ってアタックするというのがまず1つ、アタックというのもいろいろとあるのですが、まず話しかけてみるというところがまず第一歩なのかなというところです。これに関してはほかのテーマでも一緒だと思うのですが、皆さん生まれも違うし、人種も違うし、生き立ちも違うというところで、皆さんおのこの文化の違いというのも持っていちゃいますので、怖い部分があると思うのですが、そこはやはりちょっと1歩、勇気を持って踏み出すというところが一番かなと思っております。先ほど動画でもありましたけども、出来島のイベントのように西淀川区ではいろいろなイベントがありますので、そういったところへの参加であったり、またイベントをしているということの情報を自分たちで取りにいったりすることも大事なかなと思っております。そして、イベント等に参加することで、ダンスであったり、例えばイベントでもいろいろあると思うのですが、例えば緑陰道路のごみ拾いのイベントとか、そういったイベントに参加することで、参加された皆様、国籍を超えて

共通のゴールを持つことで成功体験を積み重ねていくことで、我々はどうしても島国根性として持っている外国の方に対しても、例えば怖いとか、ちょっと話しかけにくいなというような感情を乗り越えていって、お互いにいい感情になっていければ、おのずとルールの違いであったり、文化の違いというの乗り越えていけるんじゃないかという話をしました。

以上です。ありがとうございました。

(拍手)

○横内課長

ありがとうございます。ちょっと難しいテーマかもしれませんが、どうもありがとうございます。

それでは、次のチーム、お願いします。

○藤江委員

交流機会の不足をどうするかというのがうちのお題でして、今すぐできることは何かと。国勢調査、もう今まさに説明が始まっておりますけれども、国勢調査で外国の方が住まわれているところに話をしにいった「協力してください」と既に行っておられて、別の市営住宅では別の人から書き方を教えてくれと、相談に来て答えているということで、国勢調査、国の調査なので言いやすいんじゃないかと。怪しまれる可能性をどうするかという問題はあるのですが、この機会は非常に大事だろうということが出ています。一番は既にやっておられるのですが、町会の行事に参加してもらう。神輿に来てもらったり、盆踊りに来てもらったり、運動会に来てもらったりすると。これはもう楽しんでもらうことで関係性が出来上がるし、そのときに皆も紹介しやすいし、一緒に楽しくできる。それをしてもらうためにはどうしたらいいかと、その人たちにも何回でも地域の行事に参加してもらわないと、なかなか打ち解けられないということで、まず町会に入ってもらわないといけないと。今ちょっと伺った限りでは、外国人の方が日本人よりあまり嫌がらないと、地域に溶け込もうという気は外国の方

すけれども、一番手っ取り早く取り組みやすいのって挨拶だよねという話になりました。地域の方もお気軽に挨拶してくれる方というのは結構近所を掃除してくれたりとか、向こうからも積極的に交流してくれはる方が多いということで、挨拶をどんどんしていくところから言葉の壁をなくせるような交流をスタートできたらいいねというところと、あと保育所なんかですと、子どもたちが身近に感じられるように、挨拶の歌の中にいろいろな国の言葉を入れて、まずは挨拶からなじんでもらうというような取組も結構よく見るので、いっそ、よく西淀川区内で歌われている「に～よん体操」なんかをいろいろな国の言葉のバージョンでつくってみると、もともと歌詞が分かっている歌というのはずっと入りやすいと思うので、そういったところから取り組んでみるのもいいのかなというお話になりました。あと、言葉の壁というところで、自分たちから言葉を覚えるというのは結構難しいので、いっそ全力で翻訳ツールに頼れるような環境づくりをしてみるのもいいんじゃないかというお話になりまして、地域に出張講座、出前講座をした上で、翻訳ツールを使える人をちょっと増やしていけば、もうちょっと言葉のコミュニケーションがしやすくなるんじゃないかと。あとはスマホを持っていない方もいらっしゃると思うので、地域で自由に使えるような翻訳ツールの貸出があるととてもうれしいなと思ったりもしています。出前講座を定期的なイベントにしたりですとか、あとは外国籍の人に対するインタビューをしてもらう動画を作って、SNSで定期的に流したりするなどして、言葉自体を身近に感じてもらうということも一つ方法かなというお話が出ました。翻訳ツールでもちょっと難しいというところもありますので、各国で結構いろいろなコミュニティがあって、世話人がいらっしゃるの、いっそそういった方々を有償ボランティアで頼れるような状況をつくってしまうということもいいかなというお話も出ています。あと、コミュニケーションボードといいまして、ちょっとした単語ですとか文章をすぐに指さしでお互いにコミュニケーションが取れるようなボードを作って、各地域に配ってもらえると、本当に全く何もないような状態とか分からない状態でもコミュニケーションを取

ってみようという気持ちになるのかなと。こういったボードを作るに当たって、作ることを目的にしたイベントを開催してはどうかという話になりまして、西淀川区地域福祉計画に「あいあいプラン」というのがあるのですけれども、そこにあるウェルカムバンク、外国籍の方が交流を目的にいろいろなイベントを開催されたり、イベントに参加するようなことをされたりしているのですけれども、そういったところに参加している方々に協力してもらって、コミュニケーションボードを作るためのイベントを行ってみると、楽しくこういった取組ができるんじゃないかなという話になりました。あとは、学校の話も出たのですけれども、小学校とか中学校、ポイトと外国籍のお子さんが転校してこられて、言葉のフォローがとても大変だということで、現場の先生方もとてもストレスを抱えながら大変だという話が出まして、先生方もあまりストレスを抱え過ぎると悪いことをしちゃったりということもあるので、そういったことにならないように、現場のフォローがいろいろな形でできるような、言葉の壁をなくすような取組を増やせたらいいなということで話は終わりました。

以上です。

(拍手)

○横内課長

ありがとうございました。

それでは、最後、よろしくお願いいたします。

○倉方委員

「地域や就労の場での偏見の払拭」ということで、今3グループで話されていた内容が総合的に解決されないと、なかなか難しいテーマだなと思って話し始めました。具体的なことはあまり出なかったのですが、偏見が生まれるというのは相手のことが分からないということだよなということから始まって、相手のことが分からないというのは例えば、日本人同士で当たり前に分かっているようなこと、生活のごみ出しのルールとかもそうですけど、俺の仕事が終わったから関係がないから帰りますみた

いな、各職場で違うと思うのですが、そういうその職場でもともと働いていた人たちによって共有されている前提みたいなことを丁寧に伝えていく。そこの当たり前が共有されていないことで偏見が生まれていたりとか、生活の中で外国ではオーケーだったことが日本では駄目だったりとか、いろいろあると思うのですが、そういう当たり前であるということとか、そういうことからのすれ違いから、「あそこの人たちはマナーが悪いよね」とかにつながっていってしまうんじゃないかなとなりました。

すぐにできることとしては、自分の周りから関心を持つというか、積極的に関わっていくことができるかなということで、積極的に話しかけることはまず単純に挨拶、横の家の人に挨拶をするとかも含めて、あとはさっき言っていた生活のルール、「このようにごみを出してね」とか「こうやってごみを出されると困るよね」「こうしてほしいんだ」「仕事はこのようにするんだよ」とか、そういうのをシェアしていくことも相手との関わりを持つきっかけになるのではないかなという意見が出ました。あと、言葉も丁寧にということは幾つか出たのですが、言葉が崩れている、これはまた別の問題かもしれないのですが、自分たちが使っている言葉で、相手にうまく伝わらないということがあることもある。間違った日本語を使っている、相手にうまく伝わらない場面もあると思うので、言葉を日本人同士も丁寧に使っていくことが大事じゃないかという話も出ました。そういう積極的な声かけをしていって、例えばこの人につながれば、この地域の人たちとの交流ができるんだということからつながっていくと思うのですが、最後、お願いをして人に頼らないということを書いてあるのですが、ハブになっている人がいなくなったとしても、つながっていけるようなのが長期的には必要なんじゃないかなと思っていて、そこがどういうふうなのか具体的ではないですけど例えば、区役所なり何なり、地域にある会館なりで、ここで来ればこういう人たちに会えるんだということ、つながれるような場所があるといいのかなと思ってまとめました。

以上です。

(拍手)

○横内課長

どうもありがとうございました。偏見の払拭ということで、すごく難しいテーマかと思うのですが、すぐできること、長期でできることも含めまして、いろいろ挙げていただきましてどうもありがとうございます。

それでは、議長、副議長、お席に戻っていただきまして、全体の意見交換ということでさせていただきたいと思っております。出ました意見でいいますと、身近で交流する場所である情報を取りにいく国勢調査も今やっていますので、いい機会だというようなことであるとか、町会に入ってください、運動会に参加する、あとは挨拶であるとか「に～よん体操」ですね、そういうことをするなり翻訳機械を使うとか、あと、すぐに取り組むことでいうと、関心を持ったり具体的にコミュニケーションボードでウェルカムバンクを使ってというような具体的なアイデアなんかも出てきました。

それでは、議長からよろしくお願いします。

○大垣議長

ありがとうございました。発表までいただきましたけども、他のグループの発表に対してまた少し何かご意見がありましたら、どうぞよろしくお願いします。

西淀川は多文化というところでちょっと少ないのかなと思いますけど、24区に比べると人口的に少ないので、まだちょっと何か引っかけていきにくいのかどうか、日本人も奥手が多いので、どうしてもなかなか前向きに動けないというのがあるような感じですよ。

どうぞ。

○樋口委員

今、此花区は万博でにぎわっておりますけれども、本当にたくさんの方が、外国の方もいっぱい来られていて、確かに行けばたくさんの人との出会いがあって、やはり万博に行ってすごくよかったのは、「世界中の人と友達になれた」といった意見をお

聞きしていますので、この万博の流れも西淀川区へ持ってきて、もうじき終わるのですけど、交流イベントができれば、万博の今このときに何かがあればいいかなということで、よろしくお願いします。

○大垣議長

ありがとうございます。

○藤浪委員

今のお話に続くかもしれないですけど、出来島であれだけのイベントをしたということは、西淀川の野里とかいろいろなほかの地域に住んでは違う国の人たちも、「え、私たちも」みたいに広がってはいかないのかな。その辺はどうなのかなとは思いますが、出来島であれだけのことがあったぞということを西淀川の他の人たちはどれぐらい知っているのかなとか、もうちょっとあれが広がっていけばいいのかなとは思いました。

○大垣議長

ありがとうございます。PRがもう少し足らんということ。

岡崎さん、どうですか。何かしゃべって、手短に。

○岡崎委員

ご指名にあずかり、ありがとうございます。岡崎です。きっと皆様もそれぞれのグループで発表されたこと、言葉にするまでもなく、きっとお分かりなんじゃないかなと思っていて、まずは挨拶からというのが共通事項だったように思います。大阪のおばちゃん代表が私ですので、このおばちゃんパワーで勇気を持って地元に来られる外国ルーツの方にまず挨拶から声をかけて、「こんなんしたらあかんやん」じゃなくて、「これはこうしような」と言葉が分からないですけれども、身振り手振りでどうにかなっていくと思うんです。だから皆で勇気を持ってジェスチャーで頑張りましょう。

以上、岡崎の感想です。

○大垣議長

ありがとうございます。

○岡本委員

それこそもうすぐ西淀川の区民まつりが始まると思うのですけれども、この区民まつりというのは西淀川区全部の話ですので、この区民まつりの中で例えば、ペルーの方たちがダンスで出るというのであれば、それに出ていただいて、もちろんベトナムの方たちの集まりの中に西淀川区民まつりで、ぜひベトナムの皆さんをご紹介したいから何か出てきてもらえませんかとか、各区で外国が違いますとやはり好みも違いますし、ですので各西淀川に住んでいらっしゃる外国の方、ベトナム、ペルー、そして中国、韓国、いろいろな国の方がいらっしゃいますけれども、ネパールの方もいらっしゃいます。そこでアピールできるようなことを区民まつりのところでやれば、やはり区民まつりは西淀川区民が皆来ますので、そういうところで来年度、区民まつりのときにそのように外国の方たちに参加できるようなものを提案してやっていくというようなこともあっていいんじゃないかなと私は思っております。

以上です。

○大垣議長

ありがとうございます。どんどん出てきましたね。

田中さん、どないですか。

○田中委員

田中と申します。よろしくお願いいたします。この問題をまず一番に解決するには、やはり交流の機会を増やすことだと思います。そして、どこもやはりお金がまつわってくると思うのですよね。お金って財源がなかなか出てこないのです、区民まつりという本体の大きな中に入っていくとかそういうような感じで、小さいことからコツコツとつながっていくのが大切かなと思います。

以上です。ありがとうございます。

○大垣議長

ありがとうございます。だんだん盛り上がってきましたね。

そうしたら副議長、よろしく頼みます。

○矢口副議長

本日は多文化共生についていろいろお話をしてみました。交流というとやはり大きなイベントが目立ちますよね。交流イベント交流イベント、そういうのばかりですけど、お話でどのグループからも大切なものは実は挨拶ですみたいなことが聞かれて、そういうことだったのかみたいな。自分から声をかけて、ちょっと勇気が要るなと思いながら、でもそれが本当は大切なんだなと思って、明日からぜひ実行していきたいなと思うことの1つになりました。地域としては、何回もそういった交流を行えるイベントをぜひこれからしていっていただきたいと思いますし、その交流の場を続けていくのが本当にこれから大切なんだなということを今のお話でいろいろと学びました。ありがとうございます。

○大垣議長

ありがとうございます。先ほどもお話していましたが、日本人は言葉と、それと前へ出ていくのがあまり好きじゃないと思います。その中でまたこれをまとめて、また多文化の方々と一緒に交流をしていこうとすると、よっぽど勇気が要るかなと思いますけども、ちょっとぐらいい目と目が合ったら行こうかというぐらいい感じで行ってもらえれば、またいいかなと思います。区民まつりやそういう大きなイベントに呼んでいただいたらいいのではないかとということで、というのも僕も思い出したのですが、冬にやっている駅伝があるじゃないですか。あのとき、外国と言ったらやらしいけど、多文化の人がかなり今回出てくれていました。もうびっくりするほどの人数が出てくれて、一緒に走っているような感じもしましたので、絶対に取り入れたらいいと思います。そういう多文化の人ばかりを1回集めて何かイベントをやったらどうでしょう。西淀川で一回やってみるのも1つの方法かなということで、何か発信をしていかないと前へ進まないと思いますので、ちょっと1発何かかますやつをやってみ

ましようや。議員の先生方もおるし、皆でやるとできるのではないかなというので、私のコメントとさせていただきますので、よろしくお願いします。

以上です。

それでは、お越しになっておる議員の先生方のご意見を聞こうかなと思っておりますので、まずは府議会議員の中川さんからよろしくお願いします。

○中川議員

皆さん、こんばんは。夜遅くまで本当にありがとうございます。ただいまご紹介いただきました大阪府議会議員の中川誠太と申します。今日もたくさんのご意見を皆さんにいただきまして本当にありがとうございました。私自身のところにもたくさん外国のルーツを持つ子どもたちや、そういった府政相談も本当に最近増えまして。先日、前にもお話をご紹介させていただいたように、2階に住んでいるベトナムのご夫婦がいらっやいまして、日本人は食卓で机の上でご飯を食べるのが普通だと思いますけども、ベトナムの方は地べたでブルーシートを敷いて、そこで料理を食べるというのがありまして、その問題とか、そういった話があって、いろいろと外国にルーツを持つ方の相談が昨今非常に増えたなと思ってしまして、最近あったのは土葬の問題、土葬したいんだという相談もありまして、それはできませんというのではっきりと断らせていただいたのですが、そういった相談ももちろんありますし、非常にこれから外国にルーツを持つ方の相談を含む、問題も含む、トラブルも含む、そういったことも今後増えてくるんじゃないかなと思いますので、ぜひそういった中で外国の皆さんとしっかりと交流を図っていくために日頃の挨拶から始めながら、会話を重ねていくことが非常に大切なのかなと思います。これから様々なこういった課題を解決しようと思ったら、多少なりとも費用がかかってくる場面もあるんじゃないかなと思います。私はこの区政会議でも毎回毎回お話をさせていただいているのですね、西淀川区には区政推進基金というのがございまして、令和4年の時点では500万円ものお金をたくさん寄附いただいまして、それ以降だんだんと令和5年度の分に対し

ては40万、6年度も40万程度、今年度においては、今8月末時点でも9万2,000円程度寄附いただいている状況でありました。令和4年度の500万に比べたら9万円って非常に少なくなったなとも思っていました、先ほど話もありましたポケトークを購入するのも費用がかかるでしょうし、区役所の方で基金の発信をしっかりとさせていただいて、これから外国にルーツを持つ皆さんとしっかりと交流を図っていただいて、多文化共生をこれからも進めていただけたらなと思っておりますので、また引き続き皆さんのご意見を承りたいと思いますので、よろしくお願いします。皆さん、今日はありがとうございました。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございました。

それでは、今度は続きまして市会議員の佐々木議員、よろしくお願いします。

○佐々木議員

皆さん、こんばんは。市会議員の佐々木哲夫です。今日は前回に引き続き多文化共生の課題で、いろいろなご意見を聞かせていただきまして、大変勉強になりました。この場で大きな場所になると、外国人が入ってきてどうやねんみたいな話がいろいろな場に出るのですが、ここの場それぞれのテーブルで聞かせていただいて、やはり一緒に生活している仲間としてどういうふうに受け入れていけるかという、すごく前向きな意見をいただいているのが本当にすばらしいし、これが一番大事なんやなというふうには思いました。この生活の中でどうやったら仲よくできるかという知恵を出していきながら、西淀川というのはやはり人情のまちですので、外国人であるなしとか、いろいろな方も一緒にやっていこうという気持ちがやはり熱いところなので、きっとモデルケースをここからつくっていけるんじゃないかなと感じました。僕、もともと教師をしていたのですけれども、そのときも外国人の子どもを見たことはありましたけれども、今でもいろいろな取組で、子どもたちで外国の子が増えてくるので、

日本語を教える教師を増やしたりとかで体制を整えたりとか、そういうのをどんどん進めてきたのですけれども、だから例えば淀中学校でも日本語教室を置いて、淀中学校に周りの学校から通ってくると、最初の段階では毎週通って、もうちょっとしたらそれが何か月に一遍、半年に一遍という形になって、それが一定期間を過ぎたら卒業という形になるのですけれども、その期間に日本語をちゃんと覚えるかといったら、やはりそれは子どもによって全然違います。ましてや親なんかだったら、全然子どものほうがすぐに覚えますので、だからそんな中でコミュニケーションを取っていくという意味でいうと、そういう親世代を、そういう大人を相手に地域にいらっしゃる皆さんのほうが大変なんじゃないかな。ある程度学校では子どものフォローはできるけども、地域で実際に親なんかはフォローしてもらえないという中で、そういう課題が地域でどうやって受け入れるかという話になっていっているんだと思います。いろいろアイデアをいただきながら、また市としてもどんなご支援ができるかというのを、前にしっかりと進めたいなと思っています。前にお話しさせてもらったかもしれませんが、今夜間中学はほとんど外国人になっています。もう本当に全然しゃべられない。そんな若い子らがいっぱい来ています。だからだんだん日本の夜間中学校の在り方も変わってきて、それはやはり時代に応じて、それに対応できる体制をつくっていかなくないかなと思っていますので、中身を知っている人と全然知らない人と全然意識が違うのですね。だからやはり皆さんみたいに地域で見て、外国人の方だったら前向きに受け入れていけるかなという、そういう知恵をもっともっとアナウンスして広げていきたいなと感じました。今後ともまたよろしくお願いします。ありがとうございました。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございます。

続きまして、山田議員、よろしくお願いします。

○山田議員

皆さん、こんばんは。山田かなです。遅くまでいつもありがとうございます。今日はいろいろな多文化共生のお話、特に印象に残ったことをお話しさせていただきますと、国勢調査ですけれども、これは5年に一遍で、前回がコロナ禍だったので、そのノウハウというのが正直に薄れていっております。なのですごく国にとっても、この西淀川区にとっても、すごく大切な調査だろうなと思っております。それを外国の方とのコミュニケーションに使うという発想はすごく面白いなと思って聞かせていただきました。あとポケトークのお話とかも出ていましたけど、確かに予算的なことがあると思うのですけれども、今実際に区役所ではそれがスムーズにいつているということで、業務に生かしている状況というのを聞いておりますので、ぜひそういった新しいテクノロジーというところで個々を生かしていけるというご意見がさっきありましたけれども、すごくいいなと思っております。あと今回、いただいた資料4を見ますと、ちょっと前の資料だと5%ぐらいだったのですが、人口に占める外国人の割合が、5%増えてきているので、これは右肩上がりになっていつているという、その数でどれぐらいが適正かというのは正直に分からないのですけれども、これだけ12か国以上と、あと5%以上ということは、本当に真剣に私たち一人一人が外国の方と一緒にこの日本の文化も分かり、外国の文化も分かりと、一緒に本当に膝を突き合わせてやっていかないといけないんだなということをこの数字から見ても実感をしているところですが、地域によっては盆踊りでかなり外国の方も来られていましたし、確かにイベントごと、マラソン大会、できればさっき議長もおっしゃった、そういう外国の方ばかりを集めてイベントをしたらどうかと、本当にそれぐらい真剣に取り組まないと、お互いがお互いを誤解したままになってしまうんじゃないかなという危機感をあおるわけではなくて、もしかしたら私たちも自分たちの自国の文化をしっかりと考えなさいよという時期に来ているのかもしれないですね。例えば和文化とかというのをもう学校でも教えなくなってきてしまっているの、それがもしかしたら地域

でできることかもしれないなというふうに思っております。西淀川区は24区の中でも本当に外国の方とも交流がすごく盛んで、逆に言ったら、24区の中でもしかしたらモデルケースになるんじゃないかと、そこまで思っておりますので、私たちができることも遠慮なく言っていただいたら架け橋になりますし、改善するところはちゃんと議会に持っていかなきゃいけないなと思っております。早速この意見の中でもいただいている意見の中を見させてもらいましたら、しっかり私たちも持っていかなきゃいけないことが見つかりましたので、今後ともこういった区政会議というのはすごく重要だなって改めて思いました。ちょっと取りとめもなく長くなりましたけれども、お疲れさまでした。ありがとうございます。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございます。

それでは、すみません、最後に清水議員、よろしくお願いします。

○清水議員

こんばんは。すみません、遅くまで本当にありがとうございます。大阪市会議員の清水と申します。日々、皆様の区政会議に参加させていただくことで、本当に毎度毎度思うことですが、私たちも大きな部分のお話をさせていただくことが議会が多くて、皆さんの身近な話、ミクロの部分の話が本当に今後大切になってくるというのは改めて感じさせていただきました。というのも多文化共生というのは、今世界中でもすごくトピックに上がっている問題でして、なかなかこのゴールにたどり着いたところのまちというのは、いまだまだないんじゃないかなと、そういうところに向けて西淀川区が先頭に立って解決に進んでいる、そして皆様も身近な話を取り入れながら課題解決に向けてお話をしていただいているというのも、本当にすごく誇りに思うといいますか、西淀川区だからこそできますし、この西淀川区で必ずや実現できるような多文化共生を唯一成功できるまち、モデルケースにさせていきたいなと私自身も

思いました。多文化共生に向けて私自身が、前回、子どもがスクールといいますか、外国語を学ぶ幼稚園に通っている子がいまして、ちょっと見学をさせていただいたのですが、そこは日本人の子どもが基本的には多いのですが、外国人の子どももたくさんいて、そのスクールではけんかとかそういうのが全くなくて、本当それこそ多文化がすごく共存しているといいますか、子どもたちだと先入観なくもともと分かり合える力といいますか、壁がないからこそこそうやって仲よく皆でけんかをすることなく過ごしているんだなと改めて感じて、身近なところ、先ほどお話にも何回もありました、挨拶だとかイベント、そういう身近な関係性を持つことが非常に大切なんだと改めて感じました。これは私自身、今後こういう話もしていければと思うのが、今回、この課題に向けてこういう解決を皆さんで話していこうというお話がメインだったと思うのですが、逆にこの多文化共生のゴールって果たして何なんやろうというのをすごく感じまして、次、これは本当に個人的な意見ですが、今後多文化共生の話をしていくには、もしよければ皆さんでこれがゴールだからこそ、このゴールに向けて、この西淀川区において何ができるのか、何をしていけばいいのかというところの視点でも、皆さんとともに考えていければと思います。

あと、最後になるのですが、この「区政会議の質問と意見に対する回答及びその後の対応」というものでいろいろ見させていただいたのですが、皆様の意見から経過報告というのがございまして、すごく気になるなと思いましたのが、全て「何々をしています」「しております」というところの回答で、多分しているけども、皆様には届いていない、だからこそ多分こういうご意見をいただいたのかなと思いますので、これは西淀川区でしているイベントもそうですけども、様々な対応とか様々な施策、一つ一つの事業もあるのですが、それを今一度私どももそうですけども、区役所と一緒にしっかりと振り返って、どう皆様に伝えていくのか、どう皆様に対して必要なものなのかというのをしっかりもう一度振り返る機会を毎年毎年設けていかなければいけないなと改めて感じました。本当に今日はすごく勉強になりました。い

つもありがとうございます。本日も遅くまでお疲れさまでございました。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございました。

資料の中に、大阪市の外国人の比率が出ています。これで見ますと、まだまだ西淀川は少ない人数でございますけど、私の知り合いの西成区はかなりの人数で、それはいいんですけど、今度は规则的にもうどうにもこうにもならないようになっているのが現状で、例えばごみ問題ですかね、その辺のところはもう放置状態のような感じになっているので、西淀川はそういう方々がいないと前向きでやっていっているというようなことですので、ルールを分かっている方々が西淀川におられるというようなことですので、それなりにそれをまた我々のほうが、住民が受けてあげたらいいかと思いますので、よろしくお願いしますというようなことで、副区長から総括のコメントをよろしく頼みます。

○楯川副区長

皆さん、遅くまでお疲れさまでした。ありがとうございました。前回6月からちょっと一歩踏み込んだ形で、今後の課題と戦略というテーマでお話いただきました。前にもちょっとお話をしたのですが、大阪市全体では外国人住民、10年前から1.6倍ということになっています。我が国よりもはるか前から外国人住民を受け入れてきたアメリカとかヨーロッパでは、様々な軋轢も生じているというような現状がございます。受入れに関しては国策のほうに委ねるとしまして、区政という視点では生活者の視点ですね、周囲にも多くの外国人が増えてきたということに対して、ご近所さんとして上手に共生していくという必要があると考えております。そういう意味では、今後西淀川で軋轢を生まないように共生していくために、本日議論いただいた4つの議題、解決が重要かなと思っております。いろいろとご意見をいただきまして、私なりにまとめますと、まず勇気を持って話しかける、挨拶をするというところで、

私は前にも言いましたが、外国に住んでいたとき、自分のアパートから外に出たときに話しかけられて「道が分かるか、大丈夫か」と言われまして、自分の住んでいるところから出てきたところなのに、その辺を歩いている人からそう言われて、日本人は島国だという話もありましたけども、もっとオープンマインドで、いろいろな人と言葉を交わすというのがあっていいのかなと思います。町会行事のリピーターになって打ち解けられるように町会に入ってもらおうという意見がありまして、外国の方が引っ越してきたら、すぐに勧誘しに行くことをきっかけに関係づくりをとという意見がありました。これは外国人でも日本人でもすぐに勧誘してください。お願いします。子どもを通じて、ファミリー同士のお付き合いから全体、住民参加していくというのも、私の子どもが通っています保育所にも外国人の方、子どもさんがいらっしゃいますし、挨拶とかを普通にしています。具体的な施策という面では、翻訳ツールや出張講座で使い方をレクチャーするという提案がありました。翻訳ツールは最近すごく性能が上がってきているという話を聞いていますし、今後ますます本当に外国語を勉強する必要はないんじゃないかというぐらい精度が上がってくるという話もあります。そうした機器の貸出だとか、外国籍住民にインタビューをした動画を定期的に配信してはどうかとか、各コミュニティの外国ごと、コミュニティの世話人の人を有償ボランティアとして頼って見たらどうかとか、区民まつりの参加を呼びかけてみるという提案をいただきました。そして、それぞれそうした取組をきっちり区民の皆さんと共有できるように、日本人、外国人問わず共有できるようにしっかり発信していくと、発信するだけじゃなくて、しっかりと届くように発信していくということが重要なかなと思っています。

すぐに始められることもいろいろとあると思いますけども、今後地域で取り組めることもあると思います。あるいは区役所が旗を振ったり主導したりということも必要になってくるかと思っています。今後議論を深めて、着手できるところから進めてまいりたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございます。

○井上課長

防災安全課長の井上です。すみません。大西委員からいただいたご質問、津波避難ビル、時間等の提示の質問を最初にしてもらっておりまして、24時間なのか、会社によつてはここに書いていますとおり、営業時間という形で書いている分もあります。充足の部分で行きますと98かな、市営住宅で98、人数的には9万人を超えるぐらいはなっているかなと思っていて、基本的には充足はできているのかなと考えてはおります。ただ、皆さんが見えるように利便性が取りやすいようにまた引き続き確保には努めたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。申し訳ございませんでした。

○大垣議長

ありがとうございました。

それでは、事務局からご案内をよろしくお願いいたします。

○横内課長

長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。こちらのメンバーでの区政会議は本日が最後になっております。大垣議長をはじめ、今回参加していただいている大多数の方が2年間の長きにわたり、中には4年間の長きにわたり会議にご参加いただきました。熱心な議論やご意見をいただいたことは宝物と思っております。誠にありがとうございました。今後とも西淀川区の区政にご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

次回の区政会議は、12月中旬を予定しております。議題など詳細については改めて区役所からご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

○大垣議長

ありがとうございました。それでは最後に、副議長から感想、よろしくお願いします。

○矢口副議長

ありがとうございます。区政会議に参加させてもらって、毎回グループ討論をとっても楽しみにしていました。地域で活躍されている皆様のお話とか考えとかを聞くことができて、本当にふだんからのたくさんのことに気づくことができるようになりました。これからも皆様、頑張ってくださいと思います。ありがとうございます。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございます。

それでは皆さん、どうもありがとうございました。この2年で終わることと、まだまだやっていただく方がおりますけれども、その辺はまた次へ続いていくようにして行ってほしいかなと思いますので、今回で私も卒業させてもらうということで、本当にどうもどうもありがとうございました。本当にいいメンバーに恵まれながらいろいろな話をさせていただいて、こちらもいろいろ勉強しながら、また区政を頑張っていくというようなことを副区長も言っておりましたので、ちゃんと聞いておりますので、その辺をまた待ちながら、また次の人たちにバトンタッチしていきたいなと思います。どうもありがとうございました。

以上です。

○横内課長

本日はこれにて閉会いたします。

長時間にわたり熱心なご議論ありがとうございました。